

IV 資料

1. 事変・戦争略史

多大な犠牲をもたらした太平洋戦争への道程を再確認するため、明治以降の歴史を辿りながら、事変・戦争の年表を掲載しました。事変・戦争に至った背景、史実についても併記すべきですが省略することをご了承ください。

出典:「フリー百科事典ウィキペディア」から要約

和暦(西暦)	事変・戦争
明治 1年(1868)	戊辰(ぼしん)戦争が起こる 明治新政府が江戸幕府勢力を一掃した日本の内戦。
6年(1873)	徴兵令が定められる 国民の兵役義務を定めた法令で、満20歳の男子から抽選で3年の兵役(常備軍)とすることを定めた。明治22年に全面改正、昭和2年の兵役法に移行した。
8年(1875)	江華島(こうかとう)事件が起こる 朝鮮の江華島付近において日本と朝鮮の間で起こった武力衝突。日本側の軍艦の名を取って雲揚(うんよう)号事件とも呼ぶ。日朝修好条規締結の契機となった。
10年(1877)	西南戦争が起こる 西郷隆盛を盟主にして起こった士族による武力反乱。西南役、丁丑の乱、十年戦争、私学校戦争とも呼ばれ、明治初期の一連の士族反乱のうち最大規模のもので、日本最後の内戦となった。
27年(1894)	日清戦争が起こる 朝鮮半島をめぐる日本と清朝中国の戦争。朝鮮半島西岸の豊島沖海戦で始まり、成歓の戦い、平壤の戦い、黄海海戦、旅順口の戦いなどへ続く。
28年(1895)	下関条約が調印される 正式名称は日清講和条約。日清戦争の後に、下関市で開催された下関講和会議で締結。台湾や遼東半島などの領土の割譲や賠償金支払いなど11条からなる。 ロシア・ドイツ・フランスが三国干渉を行う 下関条約で日本への割譲が決定された遼東半島を清へ返還するよう、三国が行った日本に対する勧告。日本は勧告を受諾し清国中国と還付条約を結び、代償金を得る。
35年(1902)	日英同盟が成立する 日本とイギリスとの間の軍事同盟。大正12年に失効。
37年(1904)	日露戦争が起こる 大日本帝国とロシア帝国とによる、朝鮮半島と中国の満州を主戦場とした戦争。極東における南下政策を押し進めるロシア帝国と、朝鮮半島を国土防衛上の生命線と位置づける日本との戦争。仁川沖海戦、旅順港閉塞作戦、黄海作戦、遼陽会戦など。
38年(1905)	ポーツマス条約が調印される 日露戦争の講和条約。満州南部の鉄道及び領地の租借権、大韓帝国に対する排他的指導権などを得る。
43年(1910)	韓国併合が行われる 韓国併合ニ関スル条約に基づいて日本が大韓帝国を併合。併合により大韓帝国は消滅し大日本帝国が朝鮮半島を領有。
大正 3年(1914)	日本が第一次世界大戦に参戦する ヨーロッパが主戦場となった人類史上最初の世界大戦。大日本帝国がドイツに宣戦布告。日英同盟に基づいて連合国の一員として参戦。帝国陸軍は青島を攻略し、帝国海軍は南洋諸島を攻略した。
4年(1915)	中国に二十一ヶ条の要求を出す 中華民国に山東支配の確立、権益の拡大など21ヶ条の要求を行った。最終的には16ヶ条で締結。
7年(1918)	シベリア出兵が行われる 連合国(アメリカ合衆国・大日本帝国・イギリス帝国・フランス・イタリアなど)が第一次世界大戦から離脱したソ連に対し、「チェコ兵捕囚救出」という名目でシベリアに出兵した事件。
9年(1920)	国際連盟が成立する 第一次世界大戦の教訓から発足した史上初の国際平和機構である。本部はスイスのジュネーブ。第二次世界大戦後の昭和21年、国際連盟は解散し国際連合に移行。
14年(1925)	治安維持法が成立する 国体(天皇制)や私有財産制を否定する運動・結社を取り締まることを目的として制定された。太平洋戦争目前の昭和16年、重罰化・取締範囲の拡大などの全面改正。
昭和 6年(1931)	満州事変が起こる 軍部の発言力が強まり、政府を無視して引き起こされた満州における関東軍(大日本帝国陸軍)の軍事行動に端を発する国家間紛争。中華民国奉天郊外の柳条湖(現、瀋陽)で南満州鉄道の線路を爆破した柳条湖事件が発端。満州全土の制圧を経て昭和8年に停戦協定(塘沽協定)。

和暦(西暦)	事変・戦争
昭和 7年(1932)	五・一五事件が起こる 大日本帝国海軍急進派の青年将校を中心とする反乱事件。武装した海軍の青年将校が、突如首相官邸に乱入、当時の護憲運動の旗頭ともいえる犬養毅内閣総理大臣を暗殺。この事件により日本の政党政治は衰退。
8年(1933)	日本が国際連盟を脱退する 国際連盟特別総会で、満州事変は正当防衛に当たらず、満州を中国に返した上で日本を含めた外国人顧問の指導下で自治政府を樹立するよう求めたリットン報告の採決に反対し脱退。
11年(1936)	二・二六事件が起こる 陸軍皇道派の影響を受けた青年将校らが1483名の兵を率い、「昭和維新断行・尊皇討奸」を掲げて起こした反乱事件、クーデター未遂事件
12年(1937)	日中戦争が始まる 盧溝橋事件、北京の盧溝橋で起きた発砲事件を発端に日中戦争が始まる。日本軍と国民党政府は戦争状態に突入、その後戦線を拡大していった。
13年(1938)	国家総動員法が定められる 総力戦遂行のため国家のすべての人的・物的資源を政府が統制運用できる(総動員)旨を規定。
14年(1939)	第二次世界大戦が始まる ナチスドイツのポーランド侵攻に対してイギリス・フランスがドイツに宣戦を布告したことより始まった。
15年(1940)	日独伊三国同盟が成立する 日本、ドイツ、イタリアの間で締結された条約に基づく軍事同盟。アジアにおける日本の指導的地位及びヨーロッパにおける独伊の指導的地位の相互確認、調印国いずれか一カ国が米国から攻撃を受ける場合に相互に援助すると取り決めがなされた。実質上の対米軍事同盟。 大政翼賛会が発足する 新体制運動の結果発足した、国民動員体制の中核組織。
16年(1941)	日ソ中立条約が結ばれた 日本とソ連の間で締結された中立条約。相互不可侵および、一方が第三国の軍事行動の対象になった場合の他方の中立などを定めた 12月8日、太平洋戦争が始まる 日本海軍がハワイ真珠湾のアメリカ海軍の太平洋艦隊と航空基地に対して行った奇襲攻撃によって太平洋戦争が始まり、日本とアメリカが第二次世界大戦に参戦した。
18年(1943)	イタリアが降伏する
19年(1944)	学徒勤労令、女子挺身勤労令が定められる 労働力確保のため中学生以上の学生生徒らが工場や事業所で勤労に従事させられた。
20年(1945)	ドイツが降伏する 船員動員令、国民勤労働員令が定められる 3月10日東京大空襲、焼夷弾を用いた東京へ大規模な空襲 4月1日、アメリカ軍が沖縄本島中西部に上陸し、6月25日の沖縄本島における組織的な戦闘終了まで日本国内最大規模の陸戦、戦闘となった 8月6日広島、8月9日長崎に原子爆弾が投下される ポツダム宣言を受け入れ日本が降伏する アメリカ合衆国、中華民国および英国の首脳が、大日本帝国に対して発した第二次世界大戦に関する13条からなる降伏勧告の宣言。8月15日正午、玉音放送により、臣民と大日本帝国陸軍、大日本帝国海軍に降伏・太平洋戦争の終結が伝えられた。
22年(1947)	日本国憲法が施行される
26年(1951)	サンフランシスコ平和条約が調印される 第二次世界大戦におけるアメリカ合衆国をはじめとする連合国の諸国と日本国との間の戦争状態を終結させるため、両者の間で締結された平和条約。 日米安全保障条約が調印される
40年(1965)	日韓基本条約が調印される 日本と大韓民国との間で結ばれた経済協力や関係正常化などの取り決めた条約。
43年(1968)	小笠原諸島が日本に返還される
47年(1972)	沖縄が日本に返還される 日中共同声明が調印される これにより日本と中華人民共和国が国交を回復した。
53年(1978)	日中平和友好条約が調印される 日中共同声明を踏まえて、日本と中華人民共和国の友好関係の発展のために締結された条約。

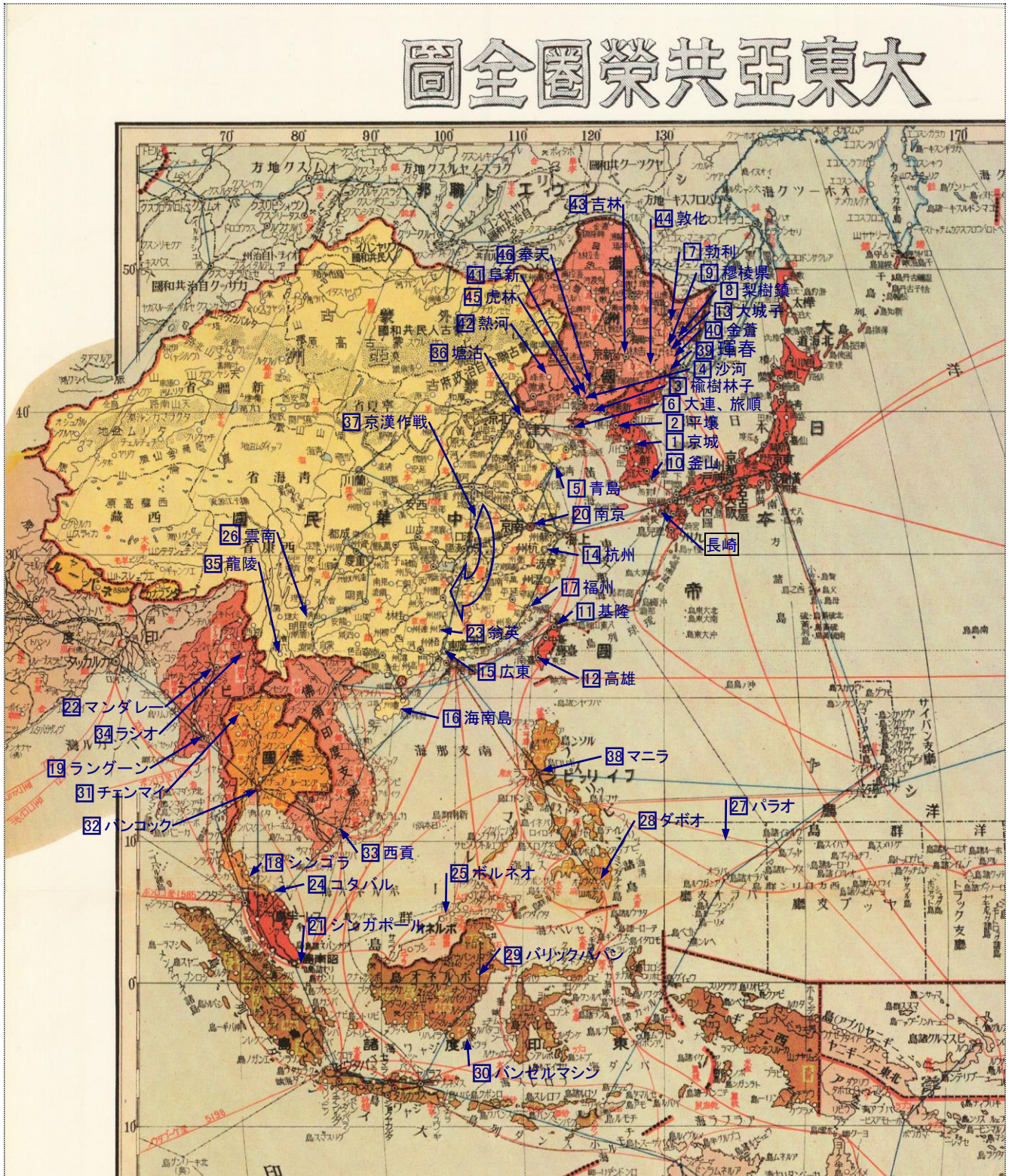
2. 郷土部隊の略歴(旧陸軍)

戦地に出征した旧軍人の戦地での労苦、辛酸さを少しでも偲ぶことが出来ればと思い、長崎県出身者で編成された旧陸軍の部隊変遷、略歴を辿ってみました。なお、旧海軍及び郷土部隊以外の旧陸軍の変遷・略歴は掲載していません。(資料出典:「援護の歩み」戦後50周年記念／平成8年3月長崎県発行より)

▼ 昭和 17 年(1942)当時の地図

出典:(株)国書刊行会発行「満州分省地図 地名総覧」

※地図上の四角囲み数字と地名は旧陸軍の郷土部隊の主な行動地・任地です。次頁以降の部隊略歴の四角囲み数字と符合しています。



第 12 師団 歩兵第 46 連隊 (剣第 8705 部隊)

明 29. 9	熊本において歩兵第 46 連隊が編成され第 6 師団長の隷下に属し、翌 30 年 6 月熊本を出発し放虎原の兵舎へ移駐
明 31. 3	宮中において軍旗親授式が行われ、3 月 20 日放虎原練兵場で歩兵第 23 旅団長が師団長代理で軍旗授与式を行った
日露戦争	
明 37. 2	臨時韓国派遣隊として動員下命 屯営出発 韓国仁川港着、同港上陸 ①京城に到り、臨時派遣大隊を聯隊長の指揮下に入る
明 37. 3	②平壤着
明 37. 4	鴨緑江河畔昌元洞に到着
明 37. 7	橋頭付近及び③楡樹林子付近で戦闘
明 37. 8	紅沙嶺付近で戦闘
明 37. 10	④沙河会戦
明 37. 12	帰還の途につく、大村に帰還、復員下命
日独戦争	
大 3. 8	動員下命、屯営出発、「あめりか丸」外 4 隻に分乗長崎港出発
大 3. 9	龍口着、堀内支隊 (歩兵 46 を基幹とす) は龍口上陸部隊の即墨付近に進出
大 3. 11	⑤青島陥落
大 3. 12	沙子口を出発、長崎港上陸、大村着

満州事変・日中戦争・太平洋戦争

昭 11. 4	満州派遣のため長崎港出発 ⑥大連上陸、 関東州界通過、三江省⑦勃利着
昭 12. 6	移駐のため⑦勃利出発、 牡丹江省穆稜県⑧梨樹鎮着
昭 12. 7	移駐のため⑧梨樹鎮出発、東安省虎林黒阻 子着
昭 12. 11	黒阻子出発
昭 12. 12	牡丹江省⑨穆稜県梨樹鎮着
昭 13. 6	移駐のため⑨穆稜出発、牡丹江省東寧県 石門子着
昭 19. 12	軍令陸甲第 159 号により編制完結 東寧県石門子出発 関東州界通過 ⑥旅順着
昭 20. 1	⑥旅順出発、鮮満国境 (安東) 通過、 ⑩釜山着、釜山出帆、門司港着 門司港出帆、鹿児島沖 (馬来丸) 及び基隆 沖 (クライド丸) において敵の攻撃を受け 1,000 名余海没死
昭 20. 2	⑪基隆上陸、爾後同付近及び⑫高雄州下 の警備に任ず
昭 21. 1	復員下命 ⑫高雄港出発、浦賀上陸、復員完結

第 12 師団 野砲兵第 24 連隊 (剣第 8722 部隊)

昭 11. 4	満州派遣のため動員下命 満州駐割のため長崎港出発 ⑥大連港上陸、関東州界通過 哈爾濱着、同地駐屯
昭 11. 7	移駐のため哈爾濱出発 寧安県掖河鎮着、同地駐屯
昭 19. 12	駐屯地牡丹江省東寧県⑬大城子出発
昭 20. 1	⑩釜山港出帆、⑪基隆港上陸 台湾台南州新化郡新化街着 台南⑫高雄州下にて防衛作戦に従事

昭 21. 1	内地帰還のため⑫高雄市に集結
昭 21. 2	第一次復員⑫高雄出帆 第二次復員⑫高雄出帆 第三次復員⑫高雄出帆
昭 21. 3	第四次復員⑫高雄出帆 宇品上陸 (第四次) 復員

第 18 師団 歩兵第 55 連隊 (菊第 8902 部隊)

昭 12. 9	大村市動員完結
昭 12. 10	門司港出発
昭 12. 11	富江港出発、⑭杭州湾上陸
昭 12. 11 ～ 12	亭林鎮の戦闘 ⑭杭州付近の戦闘
昭 13. 10	上海出発、バイヤス湾上陸作戦
昭 14. 4	四月作戦、派潭墟東洞付近
昭 14. 8	夏季作戦⑮広東省増城北方付近
昭 14. 12	翁英作戦⑮広東省翁英付近 賓陽作戦 (広西省)⑯海南島掃蕩作戦
昭 15 ～ 昭 16	⑰福州付近作戦、東江作戦 マレー東海岸グロンタン上陸作戦

昭 17. 1	馬来作戦 泰国⑱シンゴラ上陸 泰馬国境通過
昭 17. 4	昭南港出発 ⑲ラングーン上陸 緬甸進攻作戦、英印軍撃滅作戦
昭 17 ～ 昭 19	緬甸北部付近
昭 20. 9	ビルマ国チャイトにおいて武装解除
昭 21. 7	内地帰還のため⑲ラングーン港出発 宇品上陸 復員

昭 16. 12	黄埔港出発 コタペトニ上陸（英領馬來）
第 18 師団 野砲兵第 12 連隊〔山砲兵第 18 連隊に改編〕（菊第 8908 部隊）	
昭 12. 9	動員完結（久留米）
昭 12. 10	門司港出発
昭 12. 11	14 杭州湾上陸 20 南京に向かう作戦（亭林鎮、嘉興、寧元、蕪湖）
昭 13. 10	上海出港、バイヤス湾上陸作戦 広東に向かう作戦（惠州増城、五子洞、広東）
昭 14. 4	四月作戦（派潭墟、東洞）
昭 14. 8 ～ 9	夏期作戦（増城北方地方、神岡地区）
昭 14. 9	野砲兵第 12 連隊、山砲兵第 18 連隊に改編
昭 14. 12 ～ 15. 1	翁英作戦（15 広東省）
昭 15. 1 ～ 2	賓陽作戦（広西省）
昭 15. 3	16 海南島掃蕩作戦
昭 16. 4 ～ 5	17 福州作戦
昭 16. 5	東江作戦
昭 16. 9 ～ 10	四邑北江作戦
昭 17. 1	黄埔港出発 泰国 18 シンゴラ上陸

昭 17. 2	21 ジョホール水道渡河戦闘 21 シンガポール島攻略作戦
昭 17. 4	緬甸作戦のため 21 シンガポール港出発
昭 17. 4 ～ 5	緬甸進攻作戦
昭 17. 5 ～ 6	緬甸国南シャン州勘定作戦
昭 18. 2 ～ 3	潜入英印軍撃滅作戦
昭 18. 10 ～ 19. 3	ウ号作戦（雲南国境フーコン、タルン、タナイ地区）
昭 19. 3 ～ 4	8 号作戦（緬甸南フーコン地区）
昭 19. 4 ～ 7	9 号作戦（緬甸南フーコン地区）
昭 19. 7 ～ 20. 2	断作戦（バーモ、ナンカン、ミートソニ地区）
昭 20. 3 ～ 5	22 マンダレー沿線地区克作戦（メイクテラ、ピヤヴベ、トンゲー付近）
昭 20. 5 ～ 8	シッターン作戦
昭 20. 9	武装解除緬甸国チャイト
昭 21. 8	浦賀上陸 復員完結

第 18 師団 工兵第 12 連隊（菊第 8909 部隊）

昭 12. 9	動員下命（久留米） 編成完結
昭 12. 10	門司港出帆
昭 12. 11	14 杭州湾上陸
昭 13. 6	杭州より上海に転進、上海付近の警備
昭 13. 10	バイヤス湾上陸戦闘に参加 増城付近陣地構築 石竜南流橋梁架設並びに同地付近の陣地構築
昭 14. 2	夏期作戦に参加
昭 14. 8	南寧付近に集結
昭 15. 1	広州付近警備
昭 15. 4	15 広東付近警備第 1 期
昭 15. 9	〃 第 2 期
昭 16. 1	〃 第 3 期
昭 16. 5	〃 第 4 期
昭 16. 10	〃 第 5 期
昭 17. 1	馬來作戦のため広東黄埔港出帆 泰国 18 シンゴラ上陸

昭 17. 1	泰国馬來国境に転進
昭 17. 2	21 ジョホール水道渡河戦闘に参加 ブキテマ付近の戦闘に参加 新嘉坡西方要塞攻撃戦闘に参加
昭 17. 4	新嘉坡出帆 ビルマ 19 ラングーン上陸爾後引き続き北部ビルマ作戦
昭 18. 5	北部ビルマ防衛作戦
昭 18. 8	ミッチナ県ミッチナ市に転進
昭 19. 9	ナンカンに転進
昭 20. 3	シャン州 22 マンダレー沿線方面作戦
昭 20. 8	シッターン作戦
昭 21. 4	タトン県タトン集結
昭 21. 5	テナセリユム地区ムドン集結
昭 21. 7	19 ラングーン市外ミガワドン集結
昭 22. 3	19 ラングーン港出帆 宇品上陸 復員

第 18 師団 通信隊（菊第 8910 部隊）

昭 12. 9	久留米において編成
昭 12. 10	門司港出帆

昭 13. 10	15 広東付近の警備
----------	------------

昭 12. 11	14 杭州湾上陸	～14. 4	
昭 13. 10	バイヤス湾上陸戦闘に参加 15 広東攻略参加	昭 14. 12 ～15. 2	23 翁英並賓陽作戦参加
第 18 師団 通信隊 (菊第 8910 部隊) ～前ページからの続き～			
昭 15. 6 ～16. 5	15 広東付近の警備	昭 20. 3 ～ 5	シャン州 22 マンダレー沿線克作戦参加
昭 17. 1 ～ 3	マレー作戦	昭 20. 5 ～ 8	シッタン作戦参加
昭 17. 4	ビルマ転進	昭 20. 9 ～ 10	チャイト付近集結
昭 18. 10 ～19. 4	ウ号及び 9 号作戦	昭 20. 10 ～ 12	パヤジー収容所に収容
昭 19. 4 ～ 7	8 号作戦	昭 20. 12 ～21. 6	ペグー収容所に収容
昭 19. 7 ～ 10	断作戦 (第 1 期)	昭 21. 6 ～ 7	ミンガラドン収容所に収容
昭 19. 10 ～ 12	” (第 2 期)	昭 21. 7	19 ラングーン港出港 宇品港上陸、復員
昭 19. 12 ～20. 2	” (第 3 期)		

第 18 師団 輜重兵第 12 連隊 (菊第 8911 部隊)

昭 12. 9	編成完結	昭 17. 4	緬甸 19 ラングーン上陸
昭 12. 10	門司港出発	昭 18. 10	北緬甸フーコン地区に転進
昭 12. 11	五島沖仮泊 上海呉淞上陸 20 南京攻略戦参加	昭 19. 3	ワローバン付近の戦闘参加
昭 12. 12	14 杭州攻略戦参加	昭 19. 10	緬支国境ナンカン地区に転進
昭 13. 10	バイヤス湾上陸 15 広東攻略戦参加、広東付近警備	昭 19. 11	北シャン州モンミット地区に転進
昭 17. 1	泰国 18 シンゴラ上陸馬來作戦参加	昭 20. 5	シッタン付近に転進
昭 17. 2	21 シンガポール西方要塞攻撃戦闘に参加	昭 21. 7	内地帰還のため 19 ラングーン港出港
		昭 21. 8	浦賀上陸、復員

第 18 師団 兵器勤務隊 (菊第 8912 部隊)

昭 13. 9	第 18 師団兵器勤務隊編成下命 編成完結、久留米屯営地出発 門司港出帆 上海上陸	昭 17. 1 ～ 3	マレー作戦 21 シンガポール攻略戦 及び肅正工作
昭 13. 9 ～ 10	上海付近警備	昭 17. 4	昭南港出帆 19 ラングーン上陸、北部ビルマ作戦に 参加
昭 13. 10	上海出港 バイヤス湾上陸作戦に参加 15 広東攻略戦に参加	昭 17. 4 ～18. 3	北部ビルマ作戦及び占領地確保
昭 13. 10 ～14. 12	15 広東付近の戦闘及び警備	昭 18. 4 ～ 9	北部ビルマ防衛及び次期作戦準備
昭 14. 12 ～15. 1	23 翁英作戦に参加	昭 18. 10 ～19. 4	ウ号作戦及び 9 号作戦に参加
昭 15. 1 ～ 3	賓陽作戦参加	昭 19. 4 ～ 7	8 号作戦に参加
昭 15. 3	賓陽より広東に転進	昭 19. 7 ～ 9	断作戦 (第一期) に参加
昭 15. 3 ～17. 1	15 広東付近の戦闘及び警備勤務	昭 19. 12	軍令陸甲第 140 号により第 18 師団兵器 勤務隊臨時編成下命 第 18 師団司令部兵器勤務班復帰 第 18 師団司令部に編合
昭 17. 1	マレー作戦参加のため黄埔港出帆		

第 18 師団 衛 生 隊 (菊第 8913 部隊)

昭 12. 9	久留米において編成完結	昭 12. 11	14 杭州湾上陸、20 南京攻略戦に参加
昭 12. 10	門司港出帆	第 18 師団 衛 生 隊 (菊第 8913 部隊) ~前ページからの続き~	
昭 13. 6	中支方面各戦闘に参加 上海に移動	昭 17. 6	北部ビルマ作戦参加
昭 13. 10	上海上陸 南支バイヤス湾に上陸 15 広東攻略作戦に参加	昭 17. 9	北部ビルマ防衛参加
昭 14. 12	15 広東付近の警備	昭 18. 10	メイミョウ出発支那 26 雲南省に進撃 怒江作戦に参加
昭 14. 12 ~15. 1	23 翁英作戦に参加 (南支)	昭 18. 12	フーコン作戦に参加 ナンカンに転進
昭 15. 1 ~ 3	賓陽作戦に参加 (南支)	昭 20. 2	シャン州方面克作戦
昭 15. 3 ~ 6	15 広東付近警備並びに討伐	昭 20. 5	22 マンダレー州方面克作戦
昭 16. 11 ~17. 2	24 コタバル上陸作戦並びに馬來東海岸 の作戦参加	昭 20. 5 ~ 8	南ビルマ、インベットでシタン 作戦
昭 17. 3	25 ボルネオ攻略戦に参加	昭 20. 9	チャイト付近に集結、同地において 武装解除
昭 17. 4	21 シンガポール出発 19 ラングーン上陸	昭 20. 10 ~21. 7	バキジー及びローガ収容所に 収容
		昭 21. 7	19 ラングーン出帆 宇品上陸 復員

第 56 師団 歩兵第 146 連隊 (龍第 6735 部隊)

昭 16. 10	編成下命 大村衛戍地において編成完結 混成第 56 歩兵団の隷下に入る	昭 17. 5	緬支国境畹町通過
昭 16. 11	門司出発 南洋諸島 27 パラオ島着	昭 20. 8	終戦に関する電令を接し連隊は逐次緬甸 領ケマピューよりサルウイン河渡河泰国 31 チェンマイに向かい転進
昭 16. 12	27 パラオ島出発 比島 28 ダボオ上陸	昭 20. 9	泰国国境通過
昭 17. 1	蘭印タラカン作戦 蘭印 29 バリックパパン作戦	昭 20. 10	泰国 31 チェンマイ到着
昭 17. 1 ~ 4	蘭印 30 バンゼルマシン東南部ボルナオ 爪哇作戦	昭 20. 11	同地発
昭 17. 4	19 ラングーン上陸 19 ラングーンよりラシオ追求 ラシオ到着と共に第 56 師団隷下	昭 21. 12	ナコーンナーヨク到着
		昭 21. 5	内地帰還のためナコーンナーヨク発 32 バンコック出帆 大竹港上陸 復員完結

第 56 師団 搜索第 56 連隊 (龍第 6737 部隊)

昭 16. 7	軍令陸甲第 85 号により搜索第 56 連隊 臨時編成下命	昭 17. 5	第四中隊は南洋諸島の作戦を終え連隊主 力に合す
昭 16. 12	編成完結	昭 17. 8	センウイ地区警備
昭 17. 2	南方派遣のため屯営出発 門司港出発	昭 17. 9	連隊主力クンロンへ
昭 17. 3	仏印 33 西貢 (サイゴン) 港上陸 " 出帆 ビルマ蘭貢港上陸 " 出帆	昭 17. 12 ~18. 3	占領地区討伐
昭 17. 3 ~ 4	サルウイン河進出作戦	昭 18. 4 ~20. 1	26 雲南遠征
昭 17. 4	バサウンより 34 ラシオに向かう追撃戦 センウイ戦闘	昭 20. 8	タイ国に転進
昭 17. 5	クックイ北方戦闘	昭 20. 9	緬泰国境通過 31 チェンマイに集結
		昭 20. 12	ナコーンナーヨクへ出発
		昭 21. 5	内地帰還のため 32 バンコック港出発

	モンユー三叉路戦闘 ナンカン戦闘 バーモ占領 バーモ付近残敵掃討戦
--	--

昭 21. 6	浦賀上陸 復員
---------	------------

第 56 師団 野砲兵第 56 連隊 (龍第 6739 部隊)

昭 16. 12	軍令陸甲第 85 号臨時編成下命
昭 17. 2	門司港出帆
昭 17. 3	33 サイゴン上陸 " 出帆 ビルマ国 19 ランゲーン上陸
昭 17. 5	26 雲南省に進攻
昭 19. 5	新祝上、龍陵、芒市、畹町の線に後退
昭 20. 2	畹町北シャン州ナムバカ、34 ラシオ 付近の戦闘参加

昭 20. 8	カレン州ケマピュー付近に集結
昭 20. 9	ビルマ、シヤム国国境通過 武装解除
昭 21. 5	内地帰還のためナコーンナーヨク出発
昭 21. 6	浦賀上陸 復員完結

第 56 師団 工兵第 56 連隊 (龍第 6740 部隊)

昭 15. 8	軍令陸乙第 581 号により工兵第 56 連隊 新設
昭 16. 12	軍令陸甲第 85 号により臨時編成下命 編成完結
昭 17. 2	屯営出発 門司港出帆
昭 17. 3	仏印 33 西貢上陸 33 西貢出発 ビルマ国 19 ランゲーン上陸 19 ランゲーン出発 トンゲーにおいてシッタン河架橋 架橋完成
昭 17. 4	トンゲー出発
昭 17. 4 ～ 5	34 ラシオ怒江ミートキーナに向かう 追撃作戦 35 龍陵に転進
昭 17. 8	龍陵龍頭街間自動車道完成
昭 18. 10 ～ 11	怒江作戦
昭 19. 7	騰越干崖間自動車道構築 35 龍陵守備隊となる
昭 19. 8	歩兵第 148 連隊第 2 大隊龍陵到着守備 隊の指揮下に入る

昭 19. 10	歩兵第 146 連隊の指揮下に入る
昭 19. 11	35 龍陵撤退 歩兵第 146 連隊の指揮を脱し、兵団直轄 となる
昭 20. 5	ヤンフェ付近に集結
昭 20. 6	ロイユウに集結 泰緬国境間道路の確保並びにケマピュー 付近サルウイン河渡河作業
昭 20. 8	ケマピュー付近に集結師団のシヤム国 転進のためサルウイン河渡河作業
昭 20. 9	クンヤムに前進
昭 20. 11	南泰機動開始
昭 20. 12	シヤム国ナコーンナーヨクへ 集結
昭 21. 5	ナコーンナーヨクへ出発 32 盤谷 (バンコック) 到着 同港出帆 (遠州丸)
昭 21. 6	浦賀入港 同港上陸 復員完結

第 37 師団 歩兵第 277 連隊 (冬第 3545 部隊)

昭 14. 3	軍令陸甲第 6 号により連隊創設 編成完結
昭 14. 5	博多港出帆 36 塘沽上陸 山西省南部到着
昭 14. 5 ～ 19. 3	山西省南部地区治安警備

昭 19. 3 ～ 11	37 京漢作戦 南支那に転進
昭 20. 5	マレー転進のため仏印出発
昭 20. 8	シヤム通過時終戦 32 盤谷北方ナコーンナーヨク市に集結
昭 21. 5	32 盤谷港出港
昭 21. 6	浦賀上陸、復員

第 103 師団 独立歩兵第 179 大隊 (駿第 17614 部隊)

昭 18. 12	編成完結 (大村市)
昭 19. 4	門司港出帆 比島 38 マニラ港上陸 独立混成第 32 旅団長の隷下に入る

昭 20. 11	内地帰還のため 38 マニラ港出発 鹿児島上陸、復員
----------	-------------------------------

(注) 終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員

昭 19. 7	軍令により独立混成第 32 旅団を改編し 独立歩兵第 179 大隊編成下命
---------	--

第 49 師団 歩兵第 153 連隊 (狼第 18703 部隊)

昭 19. 5	臨時動員下命	昭 20. 3	泰緬国境通過
昭 19. 6	第二次動員完結	昭 20. 9	緬甸アランミョー着
	第二次輸送部隊として①京城竜山出発 南方転進のため⑩釜山港出発 門司港寄港	昭 22. 7	内地帰還のため⑪ラングーン港出発
昭 19. 7	第二次輸送部隊⑬サイゴン上陸	昭 22. 8	佐世保上陸 復員
昭 19. 8	⑬サイゴン出発 仏印泰国境通過		

第 112 師団 歩兵第 247 連隊 (公第 13125 部隊)

昭 19. 7	軍令陸甲第 82 号により編成下命	昭 20. 10	間島将校第 2 作業大隊に編入
昭 19. 8	哈爾濱孫家において編成完結 (昭 19. 7 沖繩宮古島に転用した歩兵第 3 連隊の残置者を基幹人員とし、在満各 隊からの転入者をもって編成され、逐次 間島省⑬輝春に移駐	昭 20. 11	間島出発
		昭 20. 12	ソ連国境⑬輝春經由入ソ
昭 20. 5	現地応召者編入	昭 20. 8	主力は金蒼第 52、53 作業大隊に編入
昭 20. 8	⑬輝春及び密江峠において武装解除、 輝春飛行場に収容	昭 20. 9	⑭金蒼出発
	⑭金蒼収容所に移動 将校、下士官、 兵に区分され、将校は間島収容所に収容	昭 20. 9 ～ 10	ソ連国境⑬輝春經由入ソ

第 126 師団 歩兵第 277 連隊 (満第 88 部隊)

昭 20. 1	軍令陸甲第 9 号により編成下命	昭 20. 9	緩芬河經由入ソ
昭 20. 3	第 3 国境守備隊を基幹として東安省 半截河において編成完結	昭 20. 10	タイシエツト収容所に入所
	主力は牡丹江省⑨穆稜県八面通に移駐 一部を半截河に残置	八面通残留隊の行動	
昭 20. 8	日ソ開戦	昭 20. 8	主力に合流のため⑨八面通出発 八面通東方(三峰山)に移動 同地においてソ連軍の攻撃を受けて同地 を撤退し、⑨下城子、自興屯、掖河を経て 牡丹江に向かう途中主力と合流
	扛河溝陣地を出発、牡丹江東方に行動 横道河子において武装解除 海林第 131 作業大隊に編入		

歩兵第 241 連隊 (満第 154 部隊)

昭 19. 7	軍令陸甲第 82 号により編成下命	昭 20. 8	日ソ開戦により連隊本部、第 2 大隊、第 3 連隊は④①阜新を経て遼陽に移動
昭 19. 8	錦州省④①阜新において第 9 独立守備歩 兵第 17 大隊を基幹として内地補充員及 び在満召集者をもって編成完結		停戦 遼陽において武装解除 遼陽発 海城着
昭 19. 8 ～ 20. 6	主力を④①阜新に、一部を林西、通遼に 配備し警備に任ず	昭 20. 9 ～ 10	海城第 5、第 9 作業大隊に編入
昭 20. 7	陣地構築のため一部を林西、④①阜新に 残置し主力は④②熱河省赤峰県熱水、熱 河省建平葉柏樹に移動し、引き続き一部 を各陣地構築に残置し、主力をもって南 部熱河地区の八路軍討伐を実施	昭 20. 10	海城出発 満州里經由入ソ 第 1 大隊は黒河經由入ソ

	討伐実施にあたっては連隊本部及び第2大隊は熱河省青龍県寛城、第1大隊は薫家口、第3大隊は北支喜峰口を中心に行動	昭20.10 ～ 11	第5中隊は黒河經由入ソ
--	---	----------------	-------------

機動第2連隊 (満第502部隊)

昭16.11	軍令陸甲第92号により編成下命		
昭16.12	吉林省 [43]吉林において在満各部隊より選出せる要員をもって編成完結 編成 連隊本部 第1中隊 第2中隊 爾後同地において橋梁爆破、通信網の切断等、敵の後方攪乱を目的とする訓練にあたった	昭20.8	日ソ開戦によりソ連軍と交戦40余名の戦死者その他多くの損害を受け各中隊は山中深く入りたるため本部との連絡不可能となり8月下旬にいたり漸く停戦を知る
昭19.5	軍令陸甲第55号により編成下命	昭20.9	各隊は豊燒付近に集結 同地において武装解除 [40]金蒼(汪清県)第62、第63作業大隊に編入 第62作業大隊 [40]金蒼出發 第63作業大隊 [40]金蒼出發 入ソ、クラスキーに収容(第62) 入ソ、ボンシェットに収容(第63)
昭19.6	転進命令により [43]吉林出發 鮮満国境(図們)通過 [10]釜山着 現駐地帰還命令により釜山出發	吉林残留隊の行動	
昭19.7	鮮満国境(図們)通過 現駐地 [43]吉林着	昭20.8	吉林残留隊は同地において武装解除 [43]吉林出發
昭19.8	編成改正のため吉林省九站に移動し同地において編成改正完結	昭20.9	敦化第231、232、233作業大隊に編入 [44]敦化出發
昭19.12	[43]吉林に移駐	昭20.9 ～ 10	満州里經由入ソ
昭20.7	連隊長以下主力は東満州国境老黒山狼溪黒営(以下東寧県)、豊燒(汪清県)の線に移動、同地において陣地構築作業		

第128師団 歩兵第283連隊 (満第647部隊)

昭20.1	軍令陸甲第9号により編成下命	昭20.7	現地応召者の編入
昭20.4	牡丹江省東寧県 [13]大城子南溝において編成(歩兵第260連隊編成担任により第120師団が昭20.4南鮮転用時の残留者及び第2、第11国境守備隊、重砲兵第9連隊よりの転入者を基幹とし、在満の他部隊からの編入者をもって編成)第2大隊を石門子に派遣(東寧監視隊)第132旅団と同行動し8月勝関陣地で武装解除	昭20.8	日ソ開戦により、[13]大城子南溝残留隊は主力に合流するため同地を出發 途中河西駅付近においてソ連軍の攻撃を受け四散し、牡丹江及び蘭崗に向かい分散行動 東京城において武装解除
昭20.5	現地応召者の編入 主力は [9]穆稜県大威廠、老夏家付近において陣地構築 一部は [13]大城子南溝に残留	昭20.9	主力は東京城秋山作業大隊、同第262作業大隊に編入 東京城出發 綏芬河經由入ソ

独立輜重兵第70中隊 (城第6753部隊)

昭16.7	編成下命 西部第54部隊よりの差出人員を基幹として久留米において編成完結		
昭16.8	門司港出帆 [6]大連上陸、関東州界通過 駐屯地東安省虎林県 [45]虎林着 第5軍司令官隷下に入り同地付近警備	昭20.8	日ソ開戦となり、東安付近ソ連軍侵入のため主力は第135師団に合流すべく三江省勃利県 [7]勃利方面に前進 扶桑開拓団付近でソ連軍の攻撃受く [7]勃利着、勃利出發 東安省林口県古城鎮を経て、牡丹江省寧安県横道河子に向け出發、途中、寧安県

			海林付近において若干の分離者を出した
昭 20. 3	現役入隊者 100 余名		
昭 20. 5	現地応召者約 70 名	昭 20. 9	寧安県沙蘭鎮において武装解除 寧安県東京城に集結 蘭崗（八達溝）第 16 作業大隊に編入
昭 20. 8	主力は [45] 虎林にあつて、牡丹江省寧安 県七星に作業隊を派遣し、それぞれ同地 付近の警備	昭 20. 11	満州里經由入ソ

独立輜重兵第 71 中隊（城第 6754 部隊）

昭 16. 7	編成下命 西部第 54 部隊よりの差出人員を基幹と して久留米において編成完結	昭 20. 4	東安省鶏寧県鶏寧に移駐、同地付近の 警備
昭 16. 8	門司港出帆 [6] 大連上陸 関東州界通過 駐屯地、東安省虎林県 [45] 虎林着 第 5 軍司令官隷下に入り同地付近の 警備	昭 20. 8	日ソ開戦となり、主力及び派遣隊は林口 に向かい前進 主力は林口に着、引き続き牡丹江省方面 に向かう 牡丹江省寧安県愛河において派遣隊と 合流、海林着 寧安県横道河子において武装解除
昭 16. 10	滨江省珠河县珠河に移駐、同地付近の 警備	昭 20. 9	主力は海林第 135 作業大隊に編入 同地出発 綏芬河經由入ソ
昭 17. 4	東安省西東安に移駐、同地付近の警備		
昭 18. 9	東安省新立屯に移駐、同地付近の警備		

独立輜重兵第 73 中隊

昭 16. 7	編成下命	昭 19. 9	間島省汪清県金蒼に移駐
昭 16. 8	久留米第 54 部隊において編成完結 久留米出発 門司出帆 [6] 大連上陸 [6] 大連出発 関東州界通過	昭 20. 6	第 3 軍司令官の隷下を脱し、第 44 軍司令 官の隷下に入る
昭 16. 9	埔春到着	昭 20. 7	奉天省遼源県鄭家屯に移駐
昭 17. 7	第 2 軍司令官の隷下に入る	昭 20. 8	同地出発 [46] 奉天市到着 奉天市において武装解除
昭 18. 11	第 2 軍司令官の隷下を脱し、第 3 軍司令 官の隷下に入る	昭 20. 10	奉天第 57 作業大隊に編入 [46] 奉天市出発
		昭 20. 11	黒河經由入ソ

独立輜重兵第 74 中隊

昭 16. 7	編成下命 編成完結（久留米）	昭 16. 10	東安省密山県平陽に移駐
昭 16. 8	屯営出発 門司港出帆 [10] 釜山上陸 鮮満国境（東安）通過、同日より関東 軍司令官の隷下に入る [46] 奉天着	昭 18. 8	移駐のため平陽出発 同日牡丹江省穆稜県 [8] 梨樹鎮に移駐
昭 16. 9	[46] 奉天出発 東安省鶏寧着第 1 野戦輸送司令官の 隷下に入る	昭 20. 7	朝鮮大邱府移駐のため [8] 梨樹鎮出発 鮮満国境通過 慶尚北通大邱府着
		昭 20. 10	内地帰還のため [10] 釜山港出帆 仙崎上陸 復員